

		情報発信	コミュニティ形成・連結	プロジェクト創出	プロジェクトのショーケース
アウトプット(事業量)	目標・事業計画	情報発信 100件	① イノベーション人材のコミュニティ形成 88回 学生、VC、起業家、支援機関、企業対象としたイノベーター人材のコミュニティ形成のためのセミナー等 ② 海外ワークショップ（学生、起業家） 2回 プログラム参加者 2,400人以上 イベント参加者数 3,800人以上	① ニーズ顕在化プログラム 20回 ② ハッカソン（ものアプリ、ソフト系） 6回 ③ オープンイノベーションマッチング 投資家・起業家マッチング 6回 ④ 事業開発研究会 12回 プログラム参加者 1,400人以上	● 国際イノベーション会議開催 参加者：200人以上 ● プロジェクトのプロモーション機会創出 国際会議 1回
	実績 4～8月	● イベント告知 日本語 45本、英語 27本 ● イベントレポート 日本語 4本、英語 2本 ● 起業家紹介等 日本語 5本 ● FB投稿 日本語 173本、英語 8本 ● メルマガ 3本	① イノベーション人材のコミュニティ形成 36回 ② 26年2月末～3月初旬開催予定 イベント参加者数 2,561人	① 8回（デザイン、気象、ものアプリ、LLP、等） ② 1回（ものアプリ） ③ 1回（サンスター） ④ 0回	
アウトカム(成果)	目標・達成水準	国内外のメディアに取り上げられる 定量的指標 ① HPのユーザー数 30,000 ② FBの「いいね」数 2,000 ③ メルマガ登録者数 3,000 定性的指標 ● メディア掲載数及びメディアによる評価	起業・イノベーション創出を担う人材を輩出する多様なコミュニティの活動が活性化している 定量的指標 ① メンバーシップ(OsakaHackersClub)登録者数 200 ② OsakaHackersClubのオーガナイザーが主催するコミュニティのメンバー数 3,000 定性的指標 ● コミュニティの形成が促進されている ● 多様なコミュニティが参画している ● グローバルネットワークが形成されている	イノベーション創出に資するプロジェクトが具体化している 定量的指標 ① 事業化プロジェクト創出支援件数 20件 (事業化定義) 守秘義務、共同研究等契約関係、ソフトウェア等における試作版の公開、資金調達に向けた具体的アクション、スーパープロデューサーの認定	国内外から注目度が高いプロジェクト発表の場として、国際イノベーション会議が評価される 定量的指標 ① 海外関係からの参加者数 100人程度 ② メディアでの掲載数 前回カンファレンスにおける実績と同等程度 定性的指標 ● メディアによる評価内容 ● YouTube、Facebookの情報発信効果
	目標設定の考え方	4～8月実績の2～3倍を目安としている	4～8月実績の2～3倍を目安としている	25年～27年度の3ケ年で、プロジェクト創出支援100件を目標としており、初年度は20件としている	昨年の国際カンファレンス実績に加え、グローバル化を推進
	実績 4～8月	定量的指標 ① 17,087 ② 1,004 ③ 1,638 定性的指標 ● WEBメディア掲載 7回 ● 新聞掲載 9回	定量的指標 ① 66人(プレイヤー39、オーガナイザー15、パートナー12、アドバイザー0) ② 1,432人 定性的指標 関係先とネットワーク構築 ● 領事館関係(英、米)ネットワークによるセミナー ● 香港貿易発展局を通じた販路開拓支援 ● シンガポール元政府職員を通じた、シンガポール、インドネシア進出支援 など	定量的指標 事業計画策を行い、プログラムでの成果発表等を通じて形成されたチームとして、約30件程度が把握されている。いわゆる、産学連携による事業創出とITを活用したソフトウェアにおける新サービス創出とは、創出手法や時間軸が異なるため、レベル感の違いを認識した把握に努める必要がある。 (24年度事業実績 13件)	定量的指標 定性的指標
自己評価	● 事業推進体制の構築に力点を置きながら、WEBにおける主催イベント告知、募集にかかる広報を優先的に実施。SNSもアクティブに活用。 ● メディアへの露出度に関して、ものアプリハッカソンについては、業界認知度の高いWEBメディアに取り上げられた。 ● 今後は、OsakaHackersClubのメンバー等に焦点を当てたブランディングコンテンツの発信に注力する。	● 大阪イノベーションハブの認知度を上げ、拠点の盛り上げに寄与するよう、イノベーター人材やその支援者を引き付けるための各種イベントを、主催だけでなく、共催として実施し、多くの参画を得た。 ● 大阪ハッカーズクラブのプレイヤー、オーガナイザーについては、当事業の成功の鍵を握る存在であり、面談を実施しながら登録を進めている。 ● 今後は、目標であるプロジェクト創出支援、チーム組成によりつながるためのプログラム実施していく必要がある。	● 拠点到るコミュニティを引き付けることに注力してきたが、年度後半はプロジェクト創出支援により力点を移していく。 ● OsakaHackersClubのアドバイザーへの登録促進を始めとする、スーパープロデューサーネットワークを通じたプロジェクト創出支援の機能強化が必要。	● 2014年2月の開催を予定。 ● 衆目のkeynoteスピーカーを招くだけでなく、世界にデビューする起業家登壇門として認知・評価されるカンファレンスをめざす。 ● グローバルイノベーション創出支援事業のターゲット分野である「Internet of things」をテーマに参加者を調整中。	